

Finding better ways to provide the materials the world needs

世界が求める素材を、よりよい形で

リオティントとは

リオティントは、英国とオーストラリアに上場する二元上場企業であり、鉱業と鉱物資源の加工を主たる事業としています。

世界三大鉱物資源メジャーの一角として、低炭素社会の移行に不可欠な鉄鉱石、アルミニウム、銅、チタニウム、リチウムや重要鉱物などの資源・素材を生産しています。

Products

リオティントは人類の発展に欠かせない原料や素材を提供しています。

鉄鉱石	世界最大の生産者 ¹ 日本向けシェア 1 位
アルミニウム	西側最大の生産者 ² 低炭素アルミ技術で業界をリード
銅	世界トップクラスのアセット
リチウム	世界最大級の垂直統合型生産体制を確立
ミネラルズ ³	酸化チタン原料・ホウ酸・工業塩・重要鉱物など

1 2025年実績

2 中国、ロシアを除く

3 ホウ酸、酸化チタン原料事業は戦略的見直しの対象（26年4月現在）

従業員数

約61,000人

操業国

34ヶ国

2025年純利益

109億ドル

Focus

持続可能な未来に向けて



鉄鉱石

- 高品位鉄鉱石の生産拡大
- 豪ピルバラ地域の先住民との関係強化・文化遺産保護・環境保全
- 低炭素製鉄の研究開発推進



アルミニウム

- 温室効果ガスを直接排出しないアルミ製錬技術
- 豪製錬事業における再生可能エネルギー電力への移行
- アルミナ副産物としてのガリウム抽出



銅

- 豪ウイヌ銅・金鉱山の開発
- 米レゾリューション銅鉱山の開発
- 独自のバイオリーチング技術、Nuton®により銅資源の可能性を拡大



リチウム

- 2025年にアルカディウム・リチウムを57億ドルで買収
- 2028年までに炭酸リチウム換算20万トン/年の生産能力を目指す

リオティントの製品



鉄鉱石

リオティントは世界最大級の鉄鉱石生産者であり、日本向けでは最大の供給者です。主な生産拠点は西オーストラリア州ピルバラ地区にあります。高品位鉄鉱石ペレットをカナダで、ギニアからも高品位鉄鉱石を出荷しています。ピルバラ地区およびカナダの事業には日本企業も参画しています。



アルミニウム

リオティントは日本向け最大のアルミニウム供給者の一社であり、原料からメタルまで垂直統合型の生産体制を確立しています。オーストラリアの製錬所や再生可能エネルギーを活用するニュージーランドの製錬所から日本に供給しています。北米最大のカナダの生産拠点では、水力発電を利用した低炭素アルミの供給体制を有しています。



銅

リオティントは、世界最大の銅鉱山であるチリのエスコンディータ鉱山や、今後開発を予定しているオーストラリアのウィヌ銅・金プロジェクトにおいて、日本企業をパートナーとして事業を展開しています。また、モンゴルのオユトルゴイ銅・金鉱山は、2023年3月に地下坑内掘りによる生産を開始し、世界有数の銅・金鉱山のひとつとなりました。



リチウム

リオティントは、2025年3月にアルカディウム・リチウム社を完全子会社化し、既存のアルゼンチンにおけるリンコン・プロジェクトと統合するかたちで「リオティント・リチウム」を発足させました。この新体制のもと、成長を続けるリチウム市場において生産能力を加速度的に拡大し、強力な付加価値を創出するとともに、世界クラスのリチウム事業の構築を目指しています。



ミネラルズ

カナダやアフリカで生産される**酸化チタン原料**は、1960年代より日本向けに供給されています。**ホウ素**は、カリフォルニア州のボロン地域で展開する世界最大級のホウ酸塩鉱脈から採掘されており、世界需要の約30%を担っています。また西オーストラリア州に拠点を置くダンピア・ソルト・リミテッド（DSL）では日本企業との協業のもと、2つの天日塩事業を展開し、主に化学産業向けに**工業塩**を供給しています。



重要鉱物

カナダにあるリオティント・アイアン・アンド・チタニウム（RTIT）のケベック・オペレーションでは、酸化チタン原料の製造過程で発生する廃棄物から、固体酸化物形燃料電池やアルミニウム合金などに使用される高純度の**酸化スカンジウム**の生産に成功しました。また、カナダでアルミナ精製プロセスから一次**ガリウム**を抽出する研究開発プロジェクトを進めています。

リオティントと日本

日本は、リオティントにとって極めて重要な取引先かつ長期にわたる信頼あるパートナーです。また、日本にとっても、当社は最大手の原料サプライヤーの1社であり、鉄鉱石においては最大のサプライヤーです。当社が誇る西オーストラリア州の世界最高水準の鉄鉱石事業は、日本の製鉄各社が最初の顧客となり、多大なるご支援をいただいたことにより開発することができました。1966年に西オーストラリア州から日本に向けて鉄鉱石を初出荷し、2021年12月には累積出荷量が20億トンに達しました。20億トンの鉄鉱石からは約12億トンの鉄を生み出すことができます。これは、東京スカイツリーの3万本分、あるいはシドニーハーバーブリッジの約2万3千基分の鉄に相当する量です。

日本との長い歴史

リオティントが日本への資源供給を開始したのは1920年代で、ホウ酸製品の出荷がその始まりでした。1930年代にはアルミニウム、1960年にチタンスラグの供給が開始され、1961年にはコマルコ（現リオティント アルミニウム部門）が、オーストラリアから日本へ向けてボーキサイトのトライアル出荷を初めて実施しました。その後、1960年代に西オーストラリア州ピルバラ地区で鉄鉱石鉱山の開発を開始するにあたり、日本の製鉄各社が長期購入契約を締結したことが、鉱山開発の大きな後押しとなりました。この契約は、当時、オーストラリア史上最大の売買契約として注目を集めました。今日では低炭素社会実現を目指し、環境省が設立した「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム 脱炭素経営促進ネットワーク」（GVCネットワーク）への参加をはじめ、日本の製鉄会社、サプライヤー、商社とパートナーシップを通じて、脱炭素に向けた多角的な取り組みを進めています。

このように、日本とリオティントは、約100年にわたり多面的かつ強固なパートナーシップを築き上げてきました。私たちのビジネスは、日本企業との深い信頼関係と安定した協力体制をなくして語ることはできません。



西豪州ダンピア港で「邦雲丸」に最初の日本向け鉄鉱石の荷積み（1966年）

重要な取引先、日本

高度経済成長期の真っただ中、1966年にリオティントの日本法人が誕生しました。その後、日本経済の発展とともに着実に日本との取引を拡大してきました。現在では、金属・鉱物資源における日本最大のサプライヤーの一社として200社を超える日本企業に対し、鉄鉱石、アルミニウム、銅、リチウム、モリブデン、産業用鉱産物（ホウ酸、酸化チタン、工業塩など）、およびダイヤモンドを供給しています。顧客企業は、製鉄会社、非鉄金属メーカー、商社、化学品メーカーなど、多岐にわたります。

バリューチェーンにおける日本企業

日本企業は鉱山機器、資機材や物資のサプライヤーとして、リオティントのグローバルなバリューチェーンにおいて欠かせない存在です。世界各地の鉱山から市場に至るまで、日本製の製品や技術が日々活躍しています。たとえば、リオティントの鉱山では、コマツ、日立建機、ブリヂストン、トヨタ自動車、IHIなどの日本製品が広く使用されています。コマツとのパートナーシップにより開発された大型ダンプトラックの自動無人運行システムはその代表例です。また、西オーストラリア州ピルバラ地区における当社の鉄鉱石出荷専用鉄道網、総延長約2,000キロには、日立レールSTSが構築した鉄道自動運行システム「AutoHaul™」が導入されています。また、日本製鉄とJFEスチールもこの鉄道網のレールを供給しています。



ボーキサイトからアルミナ、そしてアルミニウムを精製・製錬する工程では、日本企業の物資・資材が使用されています。海上輸送においても、日本の造船所で建造された船がリオティントの輸送船団の一部をなし、また、邦船三社をはじめとする船会社が所有、または運行するばら積み船で海上輸送を行っています。



未来に向けて

ビジネス関係とともに、リオティントは日本のパートナーと共同で、日本の将来のリーダーの育成とダイバーシティ社会の実現を支援しています。

リオティントは、日豪両国関係の発展に寄与する活動を支援するために設立された**日豪イノベーション基金（AJIF）**をサポートしています。2018年にAJIFの前身となる「リオティント日豪共同研究助成金プログラム」を設立し、日本と豪州の関係強化と発展に寄与するための科学、技術、イノベーションの分野における12の共同リサーチの助成をしました。AJIFは今後、資源業界に関連する科学やテクノロジー分野の両国の研究支援に焦点を当て、脱炭素社会の実現に必要なイノベーションの創出をサポートします。



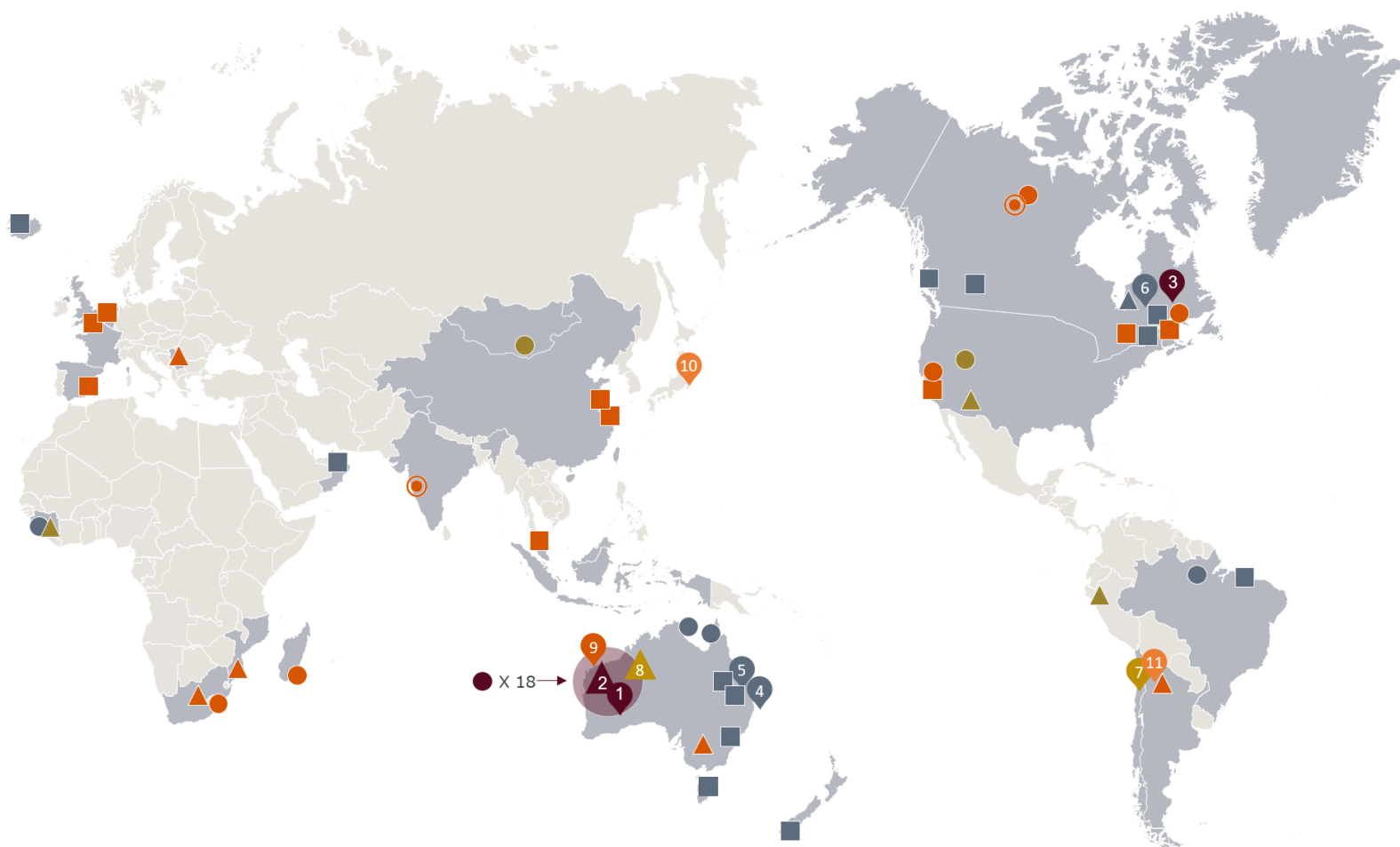
(C) Megumi Masuda / Kenichi Muto / JWRF

2022年より、北海道大学大学院工学院と九州大学大学院工学部が共同で設立した「**資源系教育コンソーシアム**」に参画しています。このコンソーシアムは、資源系人材育成の教育システムを強化、充実させることを目的とし、民間企業と公的機関の連携により構成されています。当社は唯一の外資系企業メンバーとして、将来の資源業界のリーダーの育成を支援し、同コンソーシアムを通じてさまざまなサポートを学生に提供しています。

2023年より、**一般社団法人日本車いすラグビー連盟**のオフィシャルサポーターを務めています。競技用車いすに求められる軽さや耐久性に欠かせないアルミニウムやチタン、鉄の原料はリオティントの重要な製品ポートフォリオの一部です。男女混合で行うこの競技を通じて、すべての人々が分け隔てなく交流できるダイバーシティ社会の実現を支援しています。

Our Operations

地図表記 ● 鉄鉱石 ● アルミニウム ● 銅 ● リチウム ● ミネラルズ
 ● 鉱山 ■ 製錬所、精製所、電力施設、プロセスプラント ▲ プロジェクト



日本企業とのジョイントベンチャー事業

- | | | | |
|--|--|--|-------------------------------------|
| 1 Robe River (鉱山)
三井物産/日本製鉄 | 4 Boyne Smelters (製錬所)
YKK/住友商事/丸紅/UACJ | 7 Escondida (鉱山)
三菱商事/JX金属/
三菱マテリアル | 9 Dampier Salt (鉱山)
丸紅/双日 |
| 2 Rhodes Ridge (鉱山)
三井物産 | 5 Gladstone Power Station
(電力施設)
住友商事/丸紅/三菱商事/YKK | 8 Winu (鉱山)
住友金属鉱山 | 10 Naraha (プロセスプラント)
豊田通商 |
| 3 Iron Ore Company of Canada
(鉱山) 三菱商事 | 6 Alouette (製錬所)
丸紅 | | 11 Olaroz (鉱山)
豊田通商 |



製品の用途

B

ホウ酸塩はスマートフォンの画面や車のフロントガラス、再生可能エネルギー素材、木材保存材、断熱材、肥料などに使われる多用途な鉱物です。商業的に採掘できる場所は地球上で限られており、その一つがカリフォルニア州のリオティントのホウ酸塩事業、「U.S. Borax」で、世界の精製ホウ酸塩需要の約30%を供給しています。

Fe

鉄鉱石は鋼の主要原料であり、鋼は高い強度・耐久性・コスト効率を兼ね備えているため、自動車、建築、インフラ分野で幅広く活用されています。リオティントは世界有数の鉄鉱石生産企業であり、ビルバラ地域では、17の鉱山、4つの港湾ターミナル、約1,900kmの鉄道網を含む統合インフラを展開しています。

Ti

リオティントが生産する酸化チタン原料は、自動車などの機械部品から塗料、顔料に至るまで幅広く使用されています。また、チタン合金は軽く、弾力性があり、耐食性に優れているため、航空機や宇宙空間など厳しい環境下や人工関節など医療分野でも活躍しています。

Al

軽量で無限にリサイクル可能なアルミニウムは、自動車のさまざまな部品に使われています。リオティントはカナダやニュージーランドではすでに再生可能エネルギーを活用した低炭素アルミニウムの生産を行っています。また、日本企業と協業して操業するオーストラリアのボイン製錬所では、再生可能エネルギーへの移行が進んでいます。

Li

Fe

Cu

Al

リチウムは、低炭素の未来に欠かせない原料です。輸送機器の電動化や大規模なバッテリー、エネルギー貯蔵などの低炭素技術に不可欠な重要鉱物です。また、電気自動車（EV）の電力を蓄える心臓部には、リチウムのほかに高純度の鉄が正極に、銅は電極用のフォイルや接続部に、アルミニウムはフォイルや外装部分に使われています。

Cu

銅は、地球上で最も優れた熱伝導性と電気伝導性を持つ非貴金属です。リオティントは、グリーンエネルギーへの移行において重要な役割を果たす銅の生産に力を入れています。



持続可能な社会への取り組み

リオティントは、国連の「2030アジェンダ」の考え方に沿って事業を展開し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献しています。

2050年までにネット・ゼロを達成することを表明しており、2030年までにスコープ1と2の排出量を2018年比で50%削減することを目標としています。

脱炭素化は私たちと世界にとって優先事項です。

2018年、リオティントは石炭事業を売却して資源メジャーとして唯一の化石燃料を生産しない会社となりました。

私たちは気候変動問題の解決に貢献すべく、さまざまな活動に取り組んでいます。

低炭素社会の実現に向け、長年にわたりパートナーシップを深めてきた日本企業との取り組みを強化しています。

リオティントジャパン株式会社

RTJenquiries@riotinto.com

www.riotintojapan.com/



Rio Tinto